



### 八戸院長 年頭のあいさつ (令和3年1月4日)

みなさん、明けましておめでとうございます。

新年は、いったんは収まりかけた

コロナの第3波が猛威を振るう大変な幕開けとなりましたが、年末年始も不休で病院を支えてくれた全職員に感謝いたします。昨年末に実施した感染対策訓練の成果か、冷静に患者対応をするみなさんをととても頼もしく思えました。

この一年、新型コロナのパンデミックは同時に「インフォデミック」なる造語で表されるほどに世に大量の情報の氾濫と不安をもたらし、人々はさまざまな感染防止策をもってしても苦戦を強いられてきました。今まさに私たちは感染史上未曾有の試練に直面していることを実感させられたし、まだ明快な解決策を見いだせず混迷を極めている時だからこそ、「正しく恐れる」ために自らがより食欲に正確な情報を求めていかなければならない、ということも学びました。

しかしこんなコロナ禍の中でもみなさんは、専用病棟の立ち上げには迅速に対応してくれましたし、一般診療体制を堅持しながらも寸暇を惜しんで対策訓練や新病院運用検討ワーキンググループにも参加してくれました。おかげで23年度開院予定の病院改築計画は順調に進み、建設予定地の造成工事も昨年4月から始まっています。一方では、一昨年の厚労省からの医師偏在指標の公表（最上は全国二次医療圏では335医療圏内中334位の医師少数区域）を受けて昨年開催された山形地域医療対策協議会では、県は23年度までに県全体で新たに80人の医師確保（最上地域は29人）をする方針であることが示されましたし、さっそく来年度から当院内科医師も増員か、という明るい話題もあります。

今は、国難であることを自覚してすべての国民が一つになるべき時であることは言をまちませんが、その中で私たちのできること、私たちの使命は、最上の最後の医療の砦を守っていくことです。コロナ収束の暁にはたくさんの希望が待っています。それを信じてみんなで邁進していきましょう。どうぞ本年もよろしくお願いたします。



### 病院事業管理者 年頭のあいさつ (令和3年1月6日)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、3月末からの県内における新型コロナウイルスの感染拡大、7月の大雨による洪水被害、12月の大雪と豚熱の発生と、次々と様々な危機が押し寄せた激動の1年でありました。

特に、新型コロナウイルスについては、令和元年11月に中国で最初に確認され、令和2年1月には中国の武漢で爆発的に感染が拡大し、世界各国に感染が広がるという未曾有の事態となりました。そして今も、国内外のあらゆる分野で、ウイルスとの闘いが続いています。

その中で、新庄病院の職員の皆さんは、新型コロナウイルス感染症の患者の方々への診察や治療などの最前線で業務に従事され、いち早くドライブスルー方式を導入するなど、素早く柔軟に対応してもらいました。

加えて、大蔵村で介護施設での集団感染が発生した際には、感染防止に関する専門的な指導や支援にも協力をいただき、また、県立病院の中では最も早くオンラインでの面会を導入するなど、日々尽力されています。

長期間にわたり、高い使命感を持ち、大変な緊張感の中、頑張っていたことに対し感謝申し上げますとともに、深く敬意を表する次第です。

職員の皆さんと共に一致団結してこの難局を乗り越え、県民の皆さんに持続的に安心・安全・信頼の医療を提供していくとともに、令和5年度の新病院の開院に向けて一步一步進んでまいりましょう。



### 正面玄関に新しい花が飾られました！

1階の受付機の近くに花が飾られていることに皆さんお気づきでしたか？これは、山形県花き生産連絡協議会より県産花きのPRと消費拡大のため、提供されています。

飾られている花は定期的に新しくなりますので、近くを通りかかった際にはぜひ、ゆっくりご覧ください。

